

(c058) 国際競争力と輸出拡大のための超大玉オウトウ生産・加工技術開発

事業名 革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト)

実施期間 平成28年度～30年度(3年間)

研究グループ 山形県農業総合研究センター園芸試験場、山形県農業総合研究センター食品加工開発部
山形県最上総合支庁農業技術普及課産地研究室、山形県庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室
全国農業協同組合連合会山形県本部

作成者 山形県農業総合研究センター園芸農業研究所 佐々木恵美

1 研究の背景

少子高齢化による国内果実消費の縮小、TPP協定締結による外国産果実との競合激化、生産資材の高騰、販売価格の低迷による農家所得の伸び悩みが背景にある。

2 研究の概要

超大玉オウトウ(さくらんぼ)生産による「山形さくらんぼ」の世界ブランドを確立し、6次産業化の推進による地域の活性化を図るとともに、県産果実の加工による高付加価値化を実現する。

3 研究期間中の主要な成果

- ① オウトウ超大玉(品種:「紅秀峰」)における果実大きさ3Lを安定して生産するための生産技術として、樹勢管理・剪定、着果管理、かん水方法を明らかにし、マニュアル(冊子)を作成した。
- ② オウトウ輸出推進のため、想定輸出相手国の中で最も厳しい農薬残留基準値を設定している台湾を想定した防除体系を確立した。
- ③ オウトウの素材特性を活かした高付加価値加工技術として「セミドライ」加工技術(前処理技術)を開発した。

4 研究終了後の新たな成果

- ① オウトウ大玉新品種「山形C12号」(商標:やまがた紅王)における3L主体の高品質安定生産のための着果管理、生育指標、土壌水分管理技術を明らかにした。

5 公表した主な特許・品種・論文

- ① オウトウセミドライ果実品質に与える乾燥前のシラップ含浸条件の影響(山形県農業研究報告・第12号、2020)

6 開発した技術・成果の社会実装(実用化)・普及の実績及び今後の展開

(1) 社会実装(実用化)・普及の実績

- ① 大玉品種「紅秀峰」の栽培面積拡大は、2016年447.9ha→2022年477.3ha(29.4ha増加)
大玉新品種「山形C12号」の栽培面積は、2018年からの新植で2022年120.8ha
- ② オウトウ輸出量3t、輸出額1400万円(2022年、県農林水産部調べ)
- ③ セミドライ技術を導入した製品の開発数:7件

(2) 社会実装(実用化)・普及の達成要因

大玉生産技術については、作成したマニュアルを活用し、県内の普及組織やJA等の関係団体と連携した生産実証圃設置やタイムリーな情報提供(栽培管理に関するチラシ配布)を行った。防除技術については、台湾輸出に対応した防除実証圃を設置した他、輸出志向者を対象とした研修会において成果を情報提供した。加工技術については県主催の食品加工研修会を通して技術普及を図った。

(3) 今後の開発・普及目標

大玉品種の導入推進「紅秀峰」の栽培面積550ha、「山形C12号」の栽培面積220ha(県果樹農業振興計画、令和12年目標)

7 開発した技術・成果が普及することによる波及効果及び国民生活への貢献

大玉生産による生産性向上と、トップ産地として国内外におけるブランド力の一層の強化が期待される。また、県産果実加工による通年流通と国内外での需要拡大が期待される。

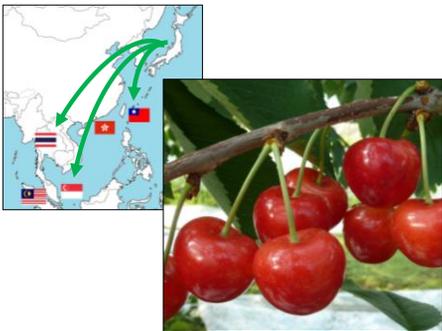
(c058) 国際競争力と輸出拡大のための超大玉アウトウ生産・加工技術開発

研究期間中及び終了後の成果

◎大玉生産マニュアルと内容の一部

革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト)
国際競争力強化と輸出拡大のための超大玉アウトウ生産・加工技術開発

**ブランド強化・輸出拡大にむけた
さくらんぼ『紅秀峰』の
「3L」果実生産マニュアル**

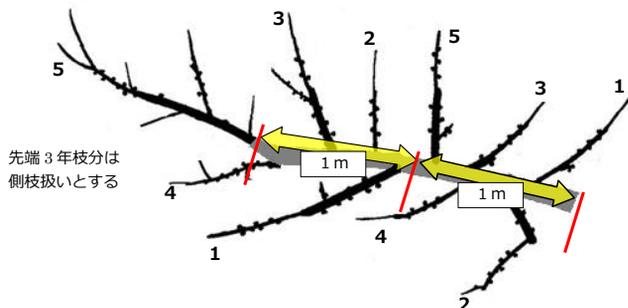


平成31年3月
山形県農業総合研究センター園芸試験場
山形県最上総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室
山形県庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室

(1) 3L生産のための側枝のつくり方

3L生産の基本は日当たりの良い樹づくりです。大きな短果枝が多い日当たりの良い樹にするため、側枝の間隔や角度に配慮が必要です。

①主枝・側枝の構成



- ◆ 1樹当りの主枝数：5～6本
- ◆ 主枝上の側枝構成：横向きと上向きの枝で構成
密度は主枝1m当り5本前後

研究終了後の成果の普及状況

◎山形県育成のアウトウ大玉品種(紅秀峰・山形C12号)導入面積

